

HOTAL HOTEL

おうみ

狂言

2018
2019 鑑

伊吹のホテルをテーマにした
おうみ狂言図鑑初の
能パロディ作品!

作・演出 茂山童司



チケット発売日
11/17(土)
10:00~

出演者

A 茂山 千作	B/C 茂山七五三	A/B/C 茂山あきら	A 茂山千三郎	B/C 茂山千五郎	A/B 茂山 宗彦	A/B/C 茂山 茂	A/B/C 茂山 逸平	A/B/C 童司政ノ 茂山千之丞
B 網谷 正美	C 丸石やすし	A 松本 薫	C 島田 洋海	A/B/C 増田 浩紀	A/C 井口 竜也	A 鈴木 実	B 山下 守之	入場料(税込) 一般 2,000円 青少年(25歳以下) 1,000円 <small>※未就学児入場不可</small>

A 平成31年 2/17(日) 14:00開演 (13:30開場)
守山市民ホール・大ホール
守山市三宅町125 ☎077-583-2532
新作「HOTAL・HOTEL」
古典「二人袴」「柿山伏」
URL <http://moriyamabuntai.com/wp/> **全席指定**

B 2/23(土) 14:00開演 (13:30開場)
東近江市てんびんの里文化学習センター
東近江市五個荘竜田町583 ☎0748-48-7100
新作「HOTAL・HOTEL」
古典「御茶の水」「太刀奪」
URL <http://www.city.higashiomi.shiga.jp/> **全席指定**

C 3/2(土) 14:00開演 (13:30開場)
伊吹葉草の里文化センター・ジョイホール
米原市春照37 ☎0749-58-0105
新作「HOTAL・HOTEL」
古典「附子」「蝸牛」
URL <http://joyibuki.info> **全席自由**

〔チケットのお求め先〕

- 3公演すべて取扱 ○ローソンチケット Lコード:55938 ☎0570-084-005
- びわ湖ホールチケットセンター (10:00~19:00 火曜日休館、現金・窓口販売のみ)
- ◇Aのみ取扱 …… ○守山市民ホール/キタダレコード ☎077-582-3251
守山市駅前総合案内所 ☎077-514-3765/LaLaツアーリスト ☎077-581-1095
- ◇Bのみ取扱 …… ○東近江市てんびんの里文化学習センター
- ◇Cのみ取扱 …… ○伊吹葉草の里文化センター/ルッチプラザ/滋賀県立文化産業交流会館
浅井文化ホール/長浜文化芸術会館

※「おうみ狂言図鑑2018-2019」全4公演のうち、2公演以上のご鑑賞で、茂山家オリジナルグッズがもれなく当たる!

- (主催) (公財)びわ湖芸術文化財団、(公財)草津市コミュニティ事業団、(公財)守山市文化体育振興事業団、東近江市、東近江市教育委員会、(公財)伊吹山麓まいばらスポーツ文化振興事業団
- (後援) 滋賀県教育委員会、草津市、草津市教育委員会、守山市、守山市教育委員会、米原市教育委員会、(株)エフエム滋賀、(株)えふえむ草津
- (助成) (公財)西川文化財団
- (制作協力) (株)童司カンパニー

おうみ狂言図鑑2019新作狂言

「HOTAL・HOTEL」

作・演出 茂山童司

昔より貴重な薬草が多く自生する伊吹山、そこへ薬を取りにやってきた男は道に迷いある一軒屋にて目を覚ます。その宿の女将はなんとも不思議な物語を語り出すのだが…。能「黒塚」を元に、伊吹山の虫達の生きる様を折り込んだおうみ狂言図鑑初となる能パロディ作品。

おうみ狂言図鑑とは？

2011年から茂山千五郎家の協力を得て、滋賀県を題材にした新作狂言を制作し、現在までに8つの作品が生まれています。これらの作品を「おうみ狂言図鑑」としてコレクションし、滋賀県だけではなく全国でも広く上演され、狂言の「笑い」と「近江」の魅力を発信し、みなさんに親しまれていくことを目指します。

おうみ狂言図鑑2019 古典作品あらすじ

2月17日(日) 守山市民ホール・大ホール

二人袴 (ふたりばかま)

若い聲(むこ)が聲入り(夫が結婚後に妻の実家に挨拶に行く中世の儀式)に出かけますが、心細いので父親に付き添いを頼みます。舅(しゅうと)の家の前で父親は聲に礼装の袴をはかせてやり、自分は外で待ちますが、舅の家の太郎冠者に見つかり家へと招かれます。しかし、袴はひとつしかありません。このピンチを二人の親子はどう切り抜けるのでしょうか。



柿山伏 (かきやまぶし)

修行帰りの山伏が空腹のため道端の柿の木に登り勝手に柿を食べていると畑主がやってきます。畑主は木の陰に隠れた山伏を見つけると、からかってやろうと烏だ猿だと言って鳴きまねをさせます。囃され、のせられた山伏は鷹の鳴き真似をしながら木から飛びおりたものの…。



2月23日(土) 東近江市てんびんの里文化学習センター

御茶の水 (おちゃのみず)

「寺の住持が新発意(しんぼち)(仏門に入って間のない者)にお茶の水を汲んで来いと命じますがなぜか固く断られ、門前の娘に行かせます。娘が小歌を謡いながら水を汲んでいるといつの間にか新発意がやってきて恋心を小歌に託して謡い言い寄ります。やがてかけあいの謡となって二人が興じている所に帰りが遅いと心配してきた住持が現れ、怒って新発意を折檻しますが…」



太刀奪 (たちうばい)

主人が太郎冠者を連れ、北野神社へお参りに出かけたところ、立派な太刀を持った男に行き会いました。太刀を奪おうと太郎冠者が男に近づきますが、逆に主人から預かった刀を取られてしまいます。主従は刀を取り戻そうと男を待ち伏せし、通りがかった男を主人が羽交い締めして縄で縛ろうとしますが、切迫した主人をよそに太郎冠者は悠然と縄を繙いはじめます。早く後ろから縄をかけろと叫ぶ主人に、更なる災難が降りかかります。



3月2日(土) 伊吹薬草の里文化センター・ジョイホール

附子 (ぶす)

太郎冠者・次郎冠者に留守番を言いつけた主人。桶の中身は附子という猛毒なので絶対に近づかないように、と言って出かけます。二人がこわごわ桶の中を覗き込むと、中身はおいしそうなお砂糖。結局すべて平らげてしまい、言い訳のためにと主人秘蔵の掛け軸や天目茶碗を壊して大声で泣きながら主人を待ちます。帰宅後、激怒する主人に二人は…。



蝸牛 (かぎゅう)

太郎冠者は主人の言いつけで長寿の薬になるという蝸牛(かたつむり)を探しに山へ出かけます。そこで修行の帰りに竹やぶで休んでいた山伏に出くわします。蝸牛を見たことがない太郎冠者は、主人から聞いた特徴から山伏を蝸牛だと勘違いし、屋敷へ連れて帰ろうとします。

